

01 - TOP MESSAGE

トップメッセージ

サステナビリティが企業経営に急激な変化を求めており、人々の意識や行動、さらにはライフスタイルにも新たな価値観を生み出していくことが、今後絶えることなく続くと思定されます。この状況は地球環境・社会環境からのメッセージと受け止め、これからも様々な持続性を第一に考えた企業経営を遂行していきます。その一歩として、17のマテリアリティ（重要課題）を社外有識者との協議、社内関連部門からのヒアリングを経て特定し、2021年度はこのマテリアリティを羅針盤として、具体的なアクションプランを携えて取り組んで参りました。

Environment(環境)

当社が取り扱う企業や学校、病院でのユニフォームや販促品は大量生産となることが多く、運用次第では様々な環境負荷が想定されます。今までも環境負荷を軽減するよう事業を展開してきましたが、2021年度は特にサステナブルな素材や梱包材の使用、無駄のないモノづくり、ユニフォームリサイクルシステムを推進し、顧客企業への提案、社員への教育も含めて取り組みました。また東京本社では照明のLED化などを実施し、2021年度からは電気や紙の使用量のモニタリングを開始しました。

Social(社会)

当社のユニフォーム事業やセールスプロモーション事業、催事事業はあらゆる人々の働きや、学び、暮らしに貢献しなければなりません。ユニフォーム事業においては、豊かで働きがいのある労働、企業・法人文化醸成への寄与や、労働安全衛生、女性の快適な労働環境の促進について検証しました。またセールスプロモーション事業では環境や社会に配慮した商品の企画により、エシカルに変わっていく消費者のライフスタイルに寄り添いました。一方、当社内においては社員の育児・介護への支援、年間休日取得日数の管理、ワークライフバランスの充実、女性活躍推進セミナーの開催

などに取り組みました。ビジネスと人権については以前より海外の工場監査を実施してきましたが、第三者機関である経済人コー円卓会議日本委員会(CRT Japan)の監修のもと、新たに人権方針を策定しました。そして当社の所在地である千代田区や東京都にて活動している団体、国内外での被災者や難民の支援団体への援助も当社に与えられた役割と考え、積極的に取り組んでまいります。

Governance(ガバナンス)

情報セキュリティやコンプライアンス、リスク管理についてはオンワードグループの規定に沿いながら運営するとともに、独自に設定したリスク管理規定や新たなコンプライアンスでの課題を含めた研修を公正取引協会や顧問法律事務所の指導のもと、全社員へ実施しました。またこれらの当社のSDGsの取り組み状況を経営職会議等にて管理・監督していき、より健全な経営を実践していきます。

目標に対して順調に進捗したマテリアリティもありましたが、欠けている部分や新たな課題に気づかされたこともありました。「1年かけて実態を把握した」というSDGs元年ではありましたが、私たちにとっては大きな一歩であったと捉えています。

2022年度からは新たにサステナブル推進部門を設置し、更に具体的な目標へと取り組んで参ります。そのためには、社員全員が「オンワード商事のSDGs」を自分ごと化すること、周りの仲間と情報や意識を共有すること、そしてお客様やお取引先様といったステークホルダーの皆様との共創が必要不可欠です。

個人、個社では解決不可能な課題への取り組みを、様々なカタチのパートナーシップを発揮して推し進めてまいります。

2022年 9月

代表取締役社長 村上 哲

